

推敲

(中国の古い話)

昔、中国の唐という時代に、賈島という詩人がいました。ある日、賈島は、ろばにのって都の町を進みながら、詩を作っていました。

その詩の中に、月の光の下で、おぼうさんが門を「おす」という場面がありました。けれども、賈島は、「おす」より「たたく」のほうがよいのではないかと考え始めました。

「おす」がいいか、「たたく」がいいか。賈島は、手でおしたりたたいたりするまねをしながら、すっかり考えこんでしまいました。そして、気づかないうちに、えらい役人の韓愈の行列につっこんでしまったのです。

賈島は、役人の前につれていかれ、わけを話しました。すると、韓愈は、おこるどころか、しばらく考えてから言いました。「それは、『たたく』のほうがよいだろう。」

二人は、それから、詩について語り合う友人になりました。

この話から、文章や詩を何度も練り直すことを、「推敲」というようになりました。

1 賈島は、何にのって進んでいましたか。

ろば

2 賈島がまよっていたのは、どの言葉ですか。

ア 「月」と「日」

イ 「おす」と「たたく」

ウ 「門」と「戸」

3 賈島が、役人の行列につっこんでしまったのは、どうしてですか。

詩の言葉をどちらにするか、すっかり考えこんでいたから。

4 賈島のわけを聞いた、韓愈の様子を書きましょう。

おこらずに、「たたく」のほうがよいと教えた。

5 文章や詩を何度も練り直すことを、何といいますか。

すいこう